

論説

いまや「反原発」の論客になった小泉純一郎元首相は、原子力発電所を「トイレのないマンション」と喝破した。

フィンランド・オンカロの使用済み核燃料の最終処分場建設現場も訪ねた。岩盤をうがち、原発2基分の「核のゴミ」を地下4000分に数十万年封じ込める。その作業を見て「日本じゃ、4000分掘らないうちに温



宮武剛

福島原発事故10年

泉がわいてくるわ」。これも寸鉄、人を刺す。

事故なしに役割を終えた原発でも気の遠くなる処理が待ち受ける。まして1〜

3号機が炉心溶融（メルトダウン）した史上最悪の福島第1原発をいかに廃炉へ持ち込むか。事故後10年、トイレのない絶対矛盾の最

洋放出を探る。国際的に認められるというが、海を水

洗トイレに使うような放出に漁業者らが猛反発するの

も無理はない。原子炉内の核燃料、制御棒などと構造物とが溶けて固まった「燃料デブリ」をどうするか。人間が近づけば1時間で死に至る放射能

外へ出す」と約束した。ど炉プロセスを示し、最短100年、最長300年と概算した。落差は途方もなく大きい。

燃料デブリを現在のよう

に水で冷やし汚染水を増やし続けるのを止め、100年以上かけて貯蔵し、空冷で放射能の通減を待つ方策もある。

現状を点検・分析し、現実的な廃炉の目標や方策を再考すべき10年目だが、立ち止まる気配はない。

東京オリンピック・パラリンピックの公式ホスターの1枚、山口晃作「馬からやヲを射る」には、象徴的な光景が広がる。

上肢欠損の女性が、首から下は車椅子の馬に乗り、矢を射つつある。遠くに福島

トイレのない絶対矛盾

中にある。

汚染水の処理は難しい。貯水タンクは1050基を数え、いずれ限界に達する。

政府はトリチウム濃度を現状の約30分の1に薄め、海

の塊である。強烈な放射線

で無線は使えず、有線のロボットに頼る。いまだ除去方法さえ固まらない。

広範囲に拡散したセシウムなどで汚染した土や草木

原子炉建屋の全体を鉄と

コンクリートの「石棺」で封じ込める提案もある。チ

エルノブイリ原発（一基）は1986年炉心溶融を起

こし、石棺で密閉され13

散らばる。詰めた黒い袋らしきものが

「フクシマを忘れるな」

みやたけ・ごう NPO法人福祉

フォーラム・ジャパン副会長、学校

法人・社会医学技術学院理事長

あと1年程度で完了予定だ

標をいまだに変えない。日

関心にも向けられているの

（本紙論説委員）